

[1 bit Audio Consortium]

発起人 山崎芳男 早稲田大学
新本孫宏 シャープ(株)
杉本昌穂 パイオニア(株)

20世紀のオーディオを振り返りますと、ディスクメディアであるSP・EP・LPなどのアナログレコードを中心とし、演奏時間の長時間化、ノイズや歪の低減、再生帯域の拡大による音質向上といったアナログ技術の革新でした。これがCDの登場により、民生機器として初めてデジタル技術が採用されて、ノイズや歪の更なる低減などに加え、利便性、小型軽量化という特長がユーザーニーズを掴み急速に普及しました。

しかしながら、現在、このデジタルオーディオ時代を牽引してきたCDに対し、そのフォーマットの限界が論議され、新しい拡張されたフォーマットや符号化方式が提案されて、実用化されつつあります。

その一つとして、「高速標準化1ビット符号化」方式があります。

この方式はサンプリング周波数と量子化ビット数の、2つのパラメータの積である伝送容量・信号伝送速度が重要な意味を持っており、個々に論じられるものではないとの考えから提案された方法で、量子化ビット数は1ビットの2値しか持たないが、サンプリング周波数を充分高くすることにより高ダイナミックレンジと広伝送帯域を得ようとする方式です。

このデジタルの良さを有しながら限りなく原音に近い等の優れた特性を持つ1ビットオーディオ技術を、次世代のオーディオニーズに応える技術の一つとして、世に広く認知していただくため、「1ビットオーディオコンソーシアム」を設立するものです。

このコンソーシアムの活動目的は、1ビットオーディオ技術の研究、同製品の開発・普及促進、同製品に関する情報交換などの活動を通じて、オーディオの発展に寄与することにあります。

今後、定期的な研究会の開催による上記活動の実行、大学における研究開発の協力等を通じて1ビットオーディオコンソーシアムの活動を展開してまいります。

以上の趣旨に基づき、1ビットオーディオ商品を製造、販売しようとする法人、同技術を研究・発展・普及させようとする団体・個人等、幅広く賛同いただける方々のメンバー参加を希望致します。